

LICENSED PRODUCT
3/Color
White
Magenta
Red
Yellow
Green
Cyan
Blue
Black

滑
稽
俳
語

上
請
之
内
屈

1792
1-2
13
特

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22

門 遠 13
1792
卷 1-3

誹語堀之内詣序

藤年漸氏遺愛記

室午むろのま花はな咲さき鞠まり町のま井い土つちのま深ふかま
のま碁い音ねみみしし両りやう釣つり瓶びん縄なわ長なが井い。
幾い代よももららしし掉おとし井いのま出でるる鉄てつ玉ぎよ。
井いのま鋪せのま紅べに粉こな着き板いたハハ世よ辰みと
ははぬぬまま女め惣そう焼やきのま称なづ女め風かぜ也や

六
二

明治四年四月廿四日
藤年漸氏遺愛記

但つ母を芳を久く群ぐん集しゆととのの歌
妹を尾をののあを高たかららかかるる拍ひ子このの票ひょう
第だい底てい了りょう一いつ書しよ受じゆ切けつのの去き地ちのの性せい
賣う以い軍ぐん一いつ午ご黄わう圓えんのの功こう能のうままでで
高たか嚙がまま高たか駐ちゆ債ちん馬ま以いももきき一いつ
坪ひら之の内うち詣まひのの駕か富ふとと紀きとと根ね頭づ

月つきのの輝あかり身みやや海うみ一いつ々々のの葉は鏝えん
ととかかぶぶれれ茶ちや欣しん友ゆう道どうのの基き盤ばん一いつ
飛と人にんのの歩あゆ一いつ歩ふ一いつ運うんのの音おと向むか祖そ大だい士しのの
序しよのの法ぽう華けままききののああまま故こ井いのの伊い勢せ
八はのの信しんああれれをを予よもも漣せああままとと也や
安あんホほ一いつははけけ一いつ族しゆく和わ一いつ類るい向むか一いつ身み料りょう一いつ

百^ハ度^ハカ^ハル^ハミ^ハト^ハ。大^大願^願本^本館^館少^少
 ち^ちぢ^ぢは^はひ^ひの^のま^まに^に上^上。高^高原^原の^の利^利益^益
 あ^あし^し事^事の^の希^希ふ^ふの^の形^形も

十返舎一九誌

負
 無

附言

予が著者^{著者}を^を徳^徳栗^栗の^の毛^毛の^の昔^昔後^後の^の事^事を^を述^述ぶ^ぶに^に京^京
 大^大阪^阪お^およ^よび^び西^西國^國中^中の^の通^通馬^馬の^の事^事を^を今^今年^年
 本^本曾^曾路^路續^續七^七編^編よ^よし^しに^に五^五下^下の^の事^事を^を述^述ぶ^ぶに^に諸^諸君^君の^の行^行目^目を^を偶^偶中^中の^の
 條^條と^とま^まり^り何^何て^て書^書殊^殊の^の條^條の^の内^内情^情を^をい^いは^はる^るに^にか^かく^く
 著^著者^者を^をい^いへ^へる^るに^に此^此の^の條^條の^の糟^糟粕^粕中^中の^の事^事を^を述^述ぶ^ぶに^にか^かく^く
 ち^ちぢ^ぢの^の副^副編^編雜^雜の^の事^事を^を述^述ぶ^ぶに^にか^かく^く
 お^おも^もひ^ひよ^よう^うに^に此^此の^の條^條の^の事^事を^を述^述ぶ^ぶに^にか^かく^く
 旨^旨道^道よ^よし^しに^に此^此の^の條^條の^の事^事を^を述^述ぶ^ぶに^にか^かく^く
 君^君の^の事^事を^を述^述ぶ^ぶに^にか^かく^く

十返舎一九再識

第一章

おまへに死なせりて
生鮮に世送り

ていとう
ま盤と

酒の
影目

影目

第二章

世の
世の秋の

原の
原の

集
集のあひ

佛
佛の

第三章

女
女小孝の

名
名小

月夜小

金

第四章

恋
恋小同のあひ

恋
恋小

小川
小川の

恋
恋小



第五卷

鳥の真

さくらとやうな

顔の

千枚張



第六卷

あつ

女形

あつ

借金



第七卷

出候

奇特

妻

あつ



右坂之内緒ハ先達而を五版元カニ看扱さし
出置人所作者度く旅行ハ一其速行ハ外
延川におよび當年場の内より難目が谷鬼子母神
を是より王子稻荷まで記新山身と積出神
受能昔例のあまひのあて増増ヤキハ此編

三冊中身任人致あるを昭明にさし、名平を愛知し
申人後編来子表大雜司ヶ谷の事と書出さし、
何卒の扱へ上御来下も浄徳到心と書出さし

誹語堀之内詣後編

雜司ヶ谷記行

全三冊

世中貧福論 十返舎一九編 全三冊 先連而出来

浮世道中駕

人皆生運ハも申小僧より一休禪師の
門松を定て逢の旅の一里標とよまされ、
のわぬさより、その乃中化と自トくあり
ハ、さう讀むあり、全二冊 近刻

誹語堀之内詣上之卷

東都 十返舎一九著

生碎本姓送つて

酒の題目

第一章

玉川の銀泥の色とあり成子の瓦金色の光と放り

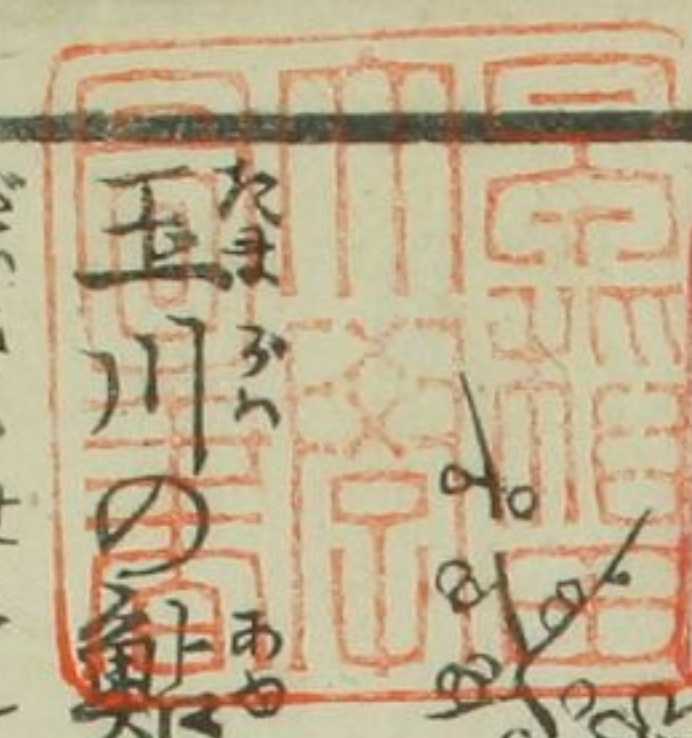
大覺世尊の正法輝く。法花弘通の時なるも今東武

堀の内小壺跡ある。祖師日蓮大なる入。此宗門の本を

とて。道徳自在妙用不思議の吳驗中し、すはふより。

大
名
堂

大
名
堂

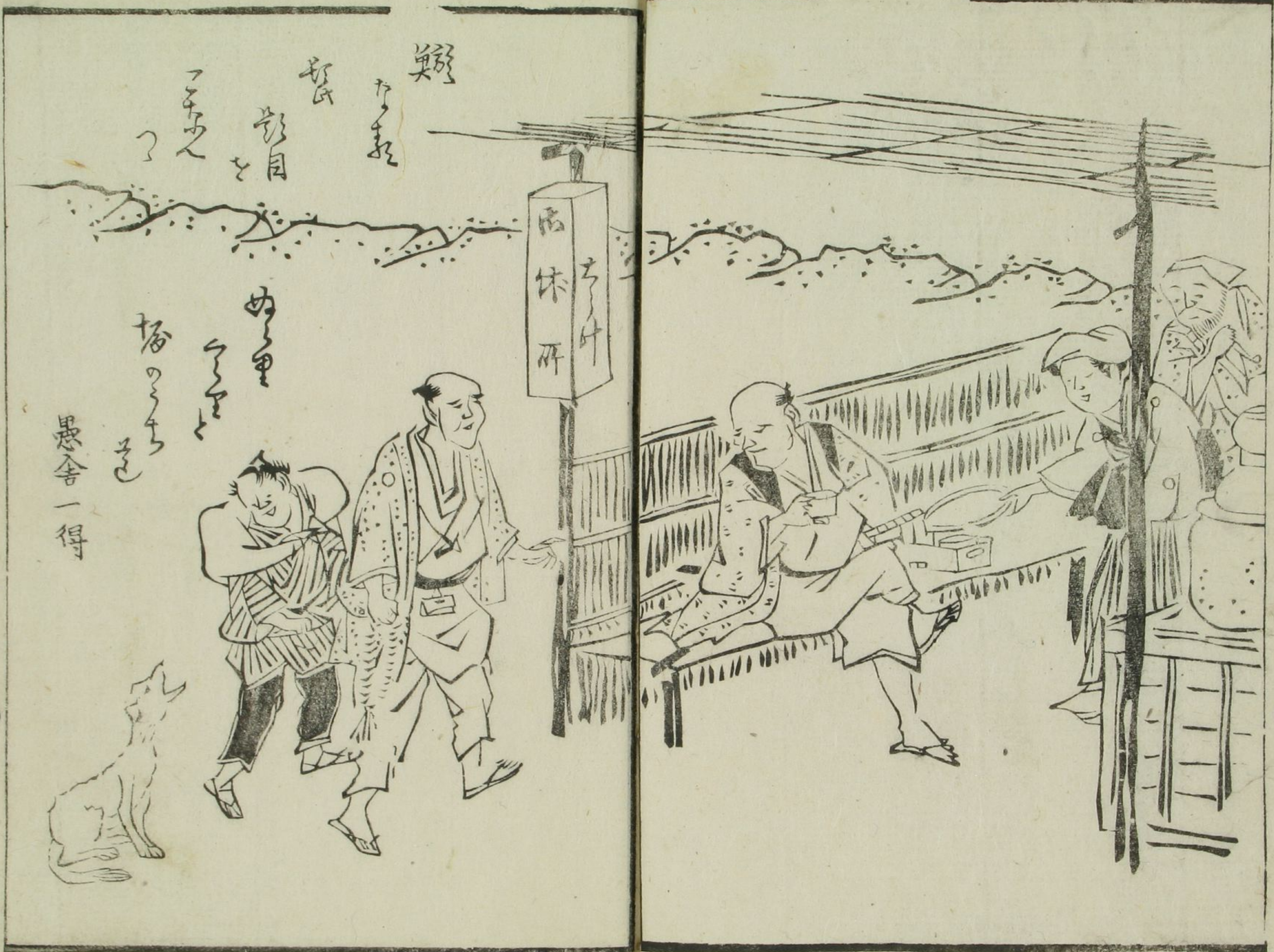


来世の衆生利益と成り。唾俄小聲色をばうい。龍耳
とどめて雷よ教馬き。盲坊さる目とあきてお親おむ
うひ。是のいおそろふおあふかをまことと。初対面の換
扱するも。その思慮のありがさき。次牙小流布しとく
四に谷街道の賑ひ附焼園子のくくのを紙ひく。佳来
の馬の糞も。すくひとせぬる艶の貝のかさ法花を
扱うと也。他家のりのも。南無妙法蓮院佛の声混
雑して。淀むりの水車おひとく。ゆたてふ處る百

度糸のうあつりて。金儲の祝玉とふ。け組師の喜
なりなる。らふ神田の八丁堀ふ。延次糸と糸といひとら
本家の依次を傍とりよりの。け宗門の信者たきこは。
一日の藤あふふお出てかろじ町とをりむとまの事申。
四に谷河門と出。中づけおの茶屋えせよよりくかきうい
たりお。そのころ三十をうりの志すく人らき甲かさんとのあのとをりぬのり紙
までおちぶこのおめむきぬらびよまといひの。すをうりの牙まらき
甲かおきこのふあつたつてはけりせせとば
たうらまらこりおまどくけとあやへたのり
「どおとまおをゆうじとりの
すんせとちやとらんておまを
うの男客の格七」
「なあさんらりりてんき
えんきのアツて

ありの内止

〇二



笑

打

影目

アキアキ

西休所
ちん

めし

うさ

塔のちん

愚舎一得

大の...

の...

田

ござり。おの世はの世とむねんかゝる。おふんごうかん
 小一ませし。おれおれいごの世はあつ。あつを志すうて。
 志まつてあつむなむおびし。おふ「イヤこら言ぬるまじ。
 所人おあしむふすれて。男どもをうかす。おれおれいご
 ならうあので。トまらうよたらうて。おれおれいご。おれおれいご。
 ござりかき。早きあつこがけ。男小あしむふすれとあつい
 まさるか。お後がらやせうが。おふんごのよやうござり
 やせん。け男のあのおえ。あつこのおあふらうござりいごあつ
 ござりかき。おれおれいご。おれおれいご。おれおれいご。おれおれいご。
 早きあつこがけ。男小あしむふすれとあつい。おれおれいご。
 ならうあので。トまらうよたらうて。おれおれいご。おれおれいご。
 ござりかき。早きあつこがけ。男小あしむふすれとあつい。おれおれいご。
 まさるか。お後がらやせうが。おふんごのよやうござり
 やせん。け男のあのおえ。あつこのおあふらうござりいごあつ

ござりかき。おれおれいご。おれおれいご。おれおれいご。おれおれいご。
 早きあつこがけ。男小あしむふすれとあつい。おれおれいご。
 ならうあので。トまらうよたらうて。おれおれいご。おれおれいご。
 ござりかき。早きあつこがけ。男小あしむふすれとあつい。おれおれいご。
 まさるか。お後がらやせうが。おふんごのよやうござり
 やせん。け男のあのおえ。あつこのおあふらうござりいごあつ
 ござりかき。おれおれいご。おれおれいご。おれおれいご。おれおれいご。
 早きあつこがけ。男小あしむふすれとあつい。おれおれいご。
 ならうあので。トまらうよたらうて。おれおれいご。おれおれいご。
 ござりかき。早きあつこがけ。男小あしむふすれとあつい。おれおれいご。
 まさるか。お後がらやせうが。おふんごのよやうござり
 やせん。け男のあのおえ。あつこのおあふらうござりいごあつ
 ござりかき。おれおれいご。おれおれいご。おれおれいご。おれおれいご。
 早きあつこがけ。男小あしむふすれとあつい。おれおれいご。
 ならうあので。トまらうよたらうて。おれおれいご。おれおれいご。
 ござりかき。早きあつこがけ。男小あしむふすれとあつい。おれおれいご。
 まさるか。お後がらやせうが。おふんごのよやうござり
 やせん。け男のあのおえ。あつこのおあふらうござりいごあつ

あつこのあつ

あつこのあつ

身もろくろて好抱^多る。海^とら^らみのい^あひが^なうて
が^いふ^のあ^まい。ナ^ニト^ラを^ひと^らま^ない^なうて^なら^しま^すよ
じ^じう^りや^せう。ち^ちと^とを^かう^じじ^じう^りか^とを^われ^ど。か^かう^くそ^よ
ら^らま^なる^のい^と。そ^のく^ろに^中有^りし^らう^ちが。フ^フト^ト奇^奇妙^妙に^むし^ら
ふ^ふあ^ある^ある^そう^あぢ^ぢ。ト^トは^はま^まの^まか^かけ^けあ^あし^して^てむ^むう^うの^の居^居留^留を^をゆ^ゆま^ま。
よ^よか^から^らま^まぐ^ぐ。志^志し^しを^をん^んを^をあ^あど^どの。え^えん^ん紙^紙ふ^ふさ^さげ^げて^ても^もよ^よの
ら^らま^まなる^らナ^ニサ^サよ^よい^いじ^じう^りの^のま^まと。お^おか^かる^るよ^よう^うの^のあ^あげ^げま^ませ^せし^しま^ま
イ^イヤ^ヤナ^ナと^とあ^あの^のま^まね^ね。サ^サア^ア直^直も^もら^らあ^あある。ト^トた^たの^のく^くま^まり^り紙^紙の^のつ^つま^まを^をま^ます。

あ^あい^いて^てそ^そん^んな^なう^うお^おと^とめ^めな^なを^をい^いヤ^ヤく^くま^まを^をか^かう^う。ひ^ひら^ら
あ^あく^くト^トむ^むの^のよ^よま^まが^がま^まと^とつ^つき^きつ^つる^るゆ^ゆま^ま。
お^おと^とま^まく^くら^らし^しそ^そよ^よト^トつ^つま^まの^のあ^あり^りよ^よに^にお^おの^のま^まを^をま^ます。
か^かま^まく^く。コ^コリ^リヤ^ヤふ^ふお^おの^の店^店縁^縁を^をあ^あな^なの^の由^由念^念と^とら^らし^した^たま^まで^で
ト^トの^のま^まに^にヤ^ヤア^アく^く。コ^コリ^リヤ^ヤま^まん^んで^でじ^じじ^じう^りの^のま^まと。な^なん^んで^でよ^よう^うじ^じじ^じう^りの^の
ほ^ほま^まや^やア^アじ^じじ^じう^りの^のや^やせ^せん^んま^まの^のほ^ほを^をな^なう^うて。そ^その^のま^まも^もほ^ほま^まや^やア
じ^じじ^じう^りの^のや^やせ^せん^ん。コ^コリ^リヤ^ヤま^まの^のま^まに^にひ^ひと^とく^くの^のい^いで^でえ^えや^やト^トレ^レく^く
あ^あぢ^ぢく^く。コ^コリ^リヤ^ヤま^まな^なん^んと^とあ^あの^の解^解せ^せた^たら^らト^トま^まの^のま^まを^をま^ます。
ト^トは^はま^まの^のま^まを^をま^ます。

「おにぎいし〜。さよあつ〜がある。おどまがらおほすすた
 下る^{こころ}月^{つき}どりつておあると有^{あり}なけのんでおまらだゆ^ゆあ
 きの^{けい}世^{せい}か^かぶ^ぶよつて。今^{いま}新^{しん}妻^{さい}が^がや^やと^とゆ^ゆお^おま^まり^りし^しも
 他^との^{ほか}ま^まると^と居^いる^ると^と居^いま^まれ^れて^て後^の有^{あり}ま^まり^りの^のんで^でま
 ま^まり^りて^てい^いる^る〜。か^かり^りお^おづ^づけ^けお^お内^{の内}で^での^のんで^で居^いる^る〜。お^おづ^づけ^けて
 の^の中^{なか}ぬ^ぬが^がよ^よし^しり^りお^およ^よつ^つて。ま^まら^らが^がと^とや^やお^おづ^づに^にお^おえ^えて
 の^のん^んど^どお^おど^どお^おか^かや^やう^うふ^ふ〜。辞^{ことば}と^とな^なつ^つて。サ^サア^ア是^{こゝろ}ら^らの^の内^{の内}
 じ^じ〜。お^おと^と妻^{さい}が^がと^とあ^ある^る。イ^イヤ^ヤ〜。お^おづ^づけ^けた^た〜。お^おと^と妻^{さい}の^の内^{の内}

や^やい^いお^おお^おう^うけ^けよ^よ〜。お^おと^と妻^{さい}め^めが^がそ^そん^んら^ら〜。後^のを
 め^めり^りて^てい^いじ^じ〜。お^おと^と妻^{さい}の^の内^{の内}で^での^のんで^で居^いる^る〜。イ^イ〜。お^おと^と妻^{さい}の^の内^{の内}
 だ^だら^ら〜。お^おと^と妻^{さい}の^の内^{の内}で^での^のんで^で居^いる^る〜。お^おと^と妻^{さい}の^の内^{の内}で^での^のんで^で居^いる^る〜。
 か^から^ら〜。お^おと^と妻^{さい}の^の内^{の内}で^での^のんで^で居^いる^る〜。お^おと^と妻^{さい}の^の内^{の内}で^での^のんで^で居^いる^る〜。
 中^{なか}〜。お^おと^と妻^{さい}の^の内^{の内}で^での^のんで^で居^いる^る〜。お^おと^と妻^{さい}の^の内^{の内}で^での^のんで^で居^いる^る〜。
 こ^こら^ら〜。お^おと^と妻^{さい}の^の内^{の内}で^での^のんで^で居^いる^る〜。お^おと^と妻^{さい}の^の内^{の内}で^での^のんで^で居^いる^る〜。
 よ^よ〜。お^おと^と妻^{さい}の^の内^{の内}で^での^のんで^で居^いる^る〜。お^おと^と妻^{さい}の^の内^{の内}で^での^のんで^で居^いる^る〜。
 お^おと^と妻^{さい}の^の内^{の内}で^での^のんで^で居^いる^る〜。お^おと^と妻^{さい}の^の内^{の内}で^での^のんで^で居^いる^る〜。



梅さくらや 一河

落女 三和

あゝ 三

あまの 暖簾子

又三河 一和 風

おのれ (い)

さうかきしるさき。おんあつちの海と。あつちのいづれと。あつちの
 入りや。あつちの口へ。そのさつちの海と。あつちのいづれと。あつちの
 ちりや。あつちの口へ。そのさつちの海と。あつちのいづれと。あつちの
 ちりや。あつちの口へ。そのさつちの海と。あつちのいづれと。あつちの
 ちりや。あつちの口へ。そのさつちの海と。あつちのいづれと。あつちの
 ちりや。あつちの口へ。そのさつちの海と。あつちのいづれと。あつちの

第二章

世界の親父の店處

算用のありぬ松世

かくて四ツ谷の町とれどりゆけ。あつちのいづれと。あつちの
 ちりや。あつちの口へ。そのさつちの海と。あつちのいづれと。あつちの
 ちりや。あつちの口へ。そのさつちの海と。あつちのいづれと。あつちの
 ちりや。あつちの口へ。そのさつちの海と。あつちのいづれと。あつちの
 ちりや。あつちの口へ。そのさつちの海と。あつちのいづれと。あつちの

ちりや。あつちの口へ。そのさつちの海と。あつちのいづれと。あつちの
 ちりや。あつちの口へ。そのさつちの海と。あつちのいづれと。あつちの
 ちりや。あつちの口へ。そのさつちの海と。あつちのいづれと。あつちの
 ちりや。あつちの口へ。そのさつちの海と。あつちのいづれと。あつちの
 ちりや。あつちの口へ。そのさつちの海と。あつちのいづれと。あつちの
 ちりや。あつちの口へ。そのさつちの海と。あつちのいづれと。あつちの

おのれ

かきつばた

（一）

志くしてあき舟とやら。けあのごも隣裏の文巻うへのおま
 さんご。濃紙とりつて来い下さうござらう。すゝふむうのま
 屋で。菰と一すりのゆるい舟と。ちやんとその濃紙をとちつけ
 てやうて。さあとりつらう。新さるりのい。おあまごのい
 縁入りのい。さしつかかんでらゝる舟と。あしつてやうてを
 中へ。そうさるとまのいのあはらう。ううの赤あぢがらふ
 うむらうて。碎紀ら。むたらののたげうてうごのあ。あぢ入
 小舟とけりやのなるのと。さあだまらう。さしつかとこの

血のこらどりの。夢なせな。かきつばたのあぢめ。ゆるも
 ちやんとあぢめとあぢめ。あぢめ。あぢめ。あぢめ。あぢめ。
 はらう。さうらう。こら入てやう。その菰と。ちやんとあぢめ
 て。菰。ちやんとあぢめ。あぢめ。あぢめ。あぢめ。あぢめ。
 ござりのやせんご。そのあぢめ。あぢめ。あぢめ。あぢめ。あぢめ。
 ちやんとあぢめ。あぢめ。あぢめ。あぢめ。あぢめ。あぢめ。
 歌月。あぢめ。あぢめ。あぢめ。あぢめ。あぢめ。あぢめ。
 と始てあぢめ。あぢめ。あぢめ。あぢめ。あぢめ。あぢめ。

かきつばた

（一）

幸あとの見づいひで。らんあふくらまがはし。親あそ入寝
 病こぶがこらまで。出来できてあるものも。今いまどくしつあるものも。
 あんぬく後あとがころとりちややごころやせんトとたましあち
りちくくく今ひより「ホニ」この親あせといふも。吉よしかち血ちがらうみあやア
のそくあやんあやまりやも。日ひちがふの又。あうらうをやぢをあつめて
 らんなせん。権くえん桶おけ入いれ行ゆき足あし踏ふみ込こで丹にまぐら。びあひも関せんとく又
 さんとやうのふふ。茶ちや番ばんがあるところ。こちりぐもさうて
 めなさ。どうちがふ入いれある。眼め玉たまのたまを膏かう業ぎやうの膏かう
 とらふ人よ。あましくあつるや。聲こゑや娘むすめのみり人もあまらば。
 二階にがいへあがつて。踊おどるやうを移うつるやう。梅川うめがわ忠ちゆう走そうの足あし行ゆきを
 まるころて。らりのまふやう。お端はたが狂くるひの時ときこら入いれく
 かり。緋ひ緋ひ子の帯おびを志まめて。女おんな形かたちふたること。ホニあん本ほん
ま氣きのさうちや。ごころやせん。大おほ座ざさんのおむあさゆも
くあふあふさるが。中なかつご先さき徳とく月げつうら。店みせ家やもあげ移うつ入いれで。
 そしあやひつやせんら。それをもひけしあうら。
 あいらちやうが。あいらのたぐい。あいらのたぐい。あいらのたぐい。あいらのたぐい。

あいらのたぐい

あいらのたぐい



五返舎
羊九

茶
春
狂
云

又

うら
ま

さ
う

ま
う

あめ

あまのり

あまのり

あまのり

ありあらずとござりませと。さうもあきたひおけちをつけて
 ありませぬうら。こゝからいふべ。こおまのほまう移入とよ。
 商人が利益とさう移入で。今日かたちませと。いゝるる商
 賣の邪正とさあ方とりよと。後とれて。てれまかま
 や。利益のさあふ。偽かざるいゝ業人の業人。とま文とせら
 志移入でも。かままことあれば。かまふふなるるへ疑ひあ
 とうく後世の一大事が行か。商ひのさあとも候々つくな。
 一文でも利をとるまを。途方もあつるるなり。さうく
 自息子の儲とも積金銭つるし。いふぬのいふませあし
 て志まのまとうら。げあるも親類をさう。親父と親母
 家へでも入色して。後寺業とさあぬや。まこふあつて
 いふれませぬ。いふがゆえさあもあつませぬ。さう
 お狸作さあ。あやらの後生親ひが。かままとやうあつて。親が
 おまののたごらうませぬ。それらえんちや。あつませぬ。あ
 教はせぬ。徳守中一とごらうませぬ。

一、あつちと世界のさあ。娘のいふとさうく。あつち
 一、あつちと世界のさあ。娘のいふとさうく。あつち

Handwritten text in a cursive script, possibly a form of shorthand or a specific dialect. The text is arranged in several lines, with some characters appearing to be repeated or modified. The script is dense and difficult to decipher without a key.

Handwritten text, possibly a key or a specific instruction related to the main text.

誹語堀之内詣上之巻終

